

## 平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月12日

上場取引所 東

上場会社名 明治ホールディングス株式会社  
 コード番号 2269 URL <http://www.meiji.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) IR広報部長  
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(氏名) 浅野 茂太郎  
 (氏名) 梅本 隆司  
 配当支払開始予定日

TEL 03-3273-3917  
 平成25年12月6日

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	562,957	0.3	15,896	58.2	17,904	51.8	9,790	85.9
25年3月期第2四半期	561,249	2.4	10,049	35.5	11,795	36.1	5,265	123.2

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 15,440百万円 (184.2%) 25年3月期第2四半期 5,433百万円 (109.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	132.92	—
25年3月期第2四半期	71.48	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第2四半期	781,915	333,857	41.7	4,424.87
25年3月期	785,514	320,609	39.9	4,254.56

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 325,903百万円 25年3月期 313,383百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
26年3月期	—	40.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,128,000	0.1	34,000	31.5	35,500	21.9	19,000	14.1	257.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(平成25年11月12日)公表いたしました「平成26年3月期 第2四半期連結累計期間における連結業績予想と実績との差異および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、[添付資料]6ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	76,341,700 株	25年3月期	76,341,700 株
26年3月期2Q	2,689,004 株	25年3月期	2,683,368 株
26年3月期2Q	73,655,077 株	25年3月期2Q	73,665,436 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算短信補足説明資料の入手方法について)

四半期決算短信補足説明資料は決算短信に添付しTDnetで開示しております。また、当社ホームページにも同日掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(セグメント情報等)	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益 (円 銭)
当第2四半期 連結累計期間	562,957	15,896	17,904	9,790	132.92
前第2四半期 連結累計期間	561,249	10,049	11,795	5,265	71.48
対前年同期 増減率(%)	0.3	58.2	51.8	85.9	—

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、円安・株高を背景に主要な景気指標に明るさが見え始め、また高額品など一部の消費動向に変化の兆しを感じられました。一方、食料品を含む日用品については、低価格志向が根強く残る中、円安や相場に伴い輸入原料価格やエネルギーコストが上昇し、来年4月の消費税率引き上げが決定されるなど、今後の景気や消費の見通しは依然不透明な状況が続いております。

こうした環境下、当社グループは、2012-2014年度グループ中期経営計画『TAKE OFF 14』の中間年度を迎え、前年度に引き続き、重点テーマ“収益性向上と飛躍に向けた戦略投資”に基づく「既存事業の強化・拡大」「成長事業の育成」「収益性の向上」に取り組んでおります。

食品セグメントにおいては、2013年4月に収益基盤強化を目的とする組織改革を実施し、乳製品、菓子、健康栄養など各事業で構造改革の取り組みを強力に進めています。また医薬品セグメントにおいては、引き続き“スペシャリティ&ジェネリック”戦略を推し進めるとともに、将来に向けた研究開発ならびにローコストオペレーションの推進に取り組んでおります。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,629億57百万円（前年同期比0.3%増）、営業利益は158億96百万円（同58.2%増）、経常利益は179億4百万円（同51.8%増）、四半期純利益は97億90百万円（同85.9%増）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	連結 損益計算書 計上額
	食品	医薬品	計		
売上高	504,195	59,633	563,828	△871	562,957
営業利益	13,372	2,436	15,808	87	15,896

#### ① 食品セグメント（株式会社 明治の事業に相当）

	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)	対前期 増減率(%)
売上高	503,916	504,195	0.1
営業利益	6,578	13,372	103.3

売上高は、乳製品事業ならびに健康栄養事業は前年同期を上回り、菓子事業は前年同期を下回った結果、全体では前年同期並みとなりました。

営業利益は、乳製品、菓子、健康栄養のいずれの事業も増益となり、全体では前年同期を大幅に上回りました。全事業でコストダウンに取り組む中、乳製品事業ではプロバイオティクスをけん引役とするプロダクトミックスの改善、菓子事業ではチョコレートを中心とするロングセラーブランドへの集中、健康栄養事業では主力商品の売上増と販売生産性の改善などが、全体の収益改善に貢献しました。

事業別の売り上げ概況は次のとおりです。

- 乳製品事業**（【市乳】ヨーグルト、牛乳類、飲料等 【加工食品】チーズ、バター、冷凍食品、業務用食品等）  
市乳は、ヨーグルトは市場の伸び以上に推移し前年同期を上回り、加工食品は前年同期並みとなった結果、全体では前年同期を上回りました。

【市乳】

- ・「明治ブルガリアヨーグルト」は前年同期をわずかに下回りましたが、2013年9月発売の「明治ブルガリアのむヨーグルト」は新しいパッケージが支持され好調に推移しました。
- ・プロバイオティクスは、健康志向が高まる中、積極的なマーケティング展開により商品価値の認知が進み、「明治ヨーグルトR-1」「明治プロビオヨーグルトLG21」とも大きく伸長しました。
- ・牛乳類は前年同期を下回りましたが、「明治おいしい牛乳」は店頭マーケティング活動など積極策が奏功し、順調に売り上げを伸ばしました。

【加工食品】

- ・チーズは、「明治北海道十勝」シリーズのカマンベール群は大きく伸長しましたが、スライスチーズ群が競争激化により前年同期を下回り、全体として前年同期並みとなりました。
- ・マーガリン類は、猛暑による市場低迷の影響もあり前年同期を下回りました。

- 菓子事業**（【菓子】チョコレート、ガム、キャンディー等 【アイスクリーム】アイスクリーム等）

菓子は主に一部商品の提携解消の影響で前年同期を下回り、アイスクリームも前年同期を下回った結果、全体では前年同期を下回りました。

【菓子】

- ・夏場の猛暑と長引く残暑が懸念されましたが、主力のチョコレートは前年同期を上回りました。「きのこの山」「たけのこの里」「チョコレート効果」が大きく伸長し、「明治ミルクチョコレート」も堅調に推移しました。2013年9月発売の「大人のきのこの山」「大人のたけのこの里」は好調に推移しました。
- ・ガムは市場低迷が続く中、前年同期を下回りました。グミは堅調に推移し、特に「果汁グミ」は新フレーバーの投入などにより大きく伸長しました。

【アイスクリーム】

- ・アイスクリームは、主力の「明治エッセルスーパーカップ」は前年同期並みでしたが、その他のアイスクリームが苦戦となり、前年同期を下回りました。

- 健康栄養事業**（スポーツ栄養、健康機能、OTC、粉ミルク、流動食、高齢者食等）

スポーツ栄養、粉ミルク、流動食が好調に推移し、全体では前年同期を上回りました。

- ・スポーツ栄養では、「ザバス」がランナーやジュニアへの普及強化により前年同期を大幅に上回りました。
- ・健康機能では、「アミノコラーゲン」が前年同期並みとなりました。
- ・粉ミルクは、前年同期を大幅に上回りました。
- ・流動食は前年同期を上回り、高齢者食は販路拡大に伴い前年同期を大幅に上回りました。

## ② 医薬品セグメント(Meiji Seika ファルマ株式会社の事業に相当)

	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)	対前期 増減率(%)
売上高	58,447	59,633	2.0
営業利益	3,308	2,436	△26.4

売上高は、生物産業事業は前年同期を大幅に下回りましたが、国内の医療用医薬品事業が堅調に推移し、全体では前年同期を上回りました。

営業利益は、医療用医薬品の増収の一方、生物産業の減収ならびに研究開発費用の増加が響き、全体では前年同期を大幅に下回りました。

事業別の売り上げ概況は次のとおりです。

### ■医療用医薬品事業

- ・抗菌薬では、「メイアクト」「オラペネム」とも前年同期を上回りました。
- ・抗うつ薬では、「リフレックス」が前年同期を大幅に上回りました。
- ・ジェネリック医薬品は前年同期を大幅に上回りました。カルシウム拮抗薬「アムロジピン錠 明治」、アルツハイマー型認知症治療薬「ドネペジル 明治」は大きく伸長、また2012年12月以降発売の製品なども売上増に寄与しました。

### ■生物産業事業（農薬・動物薬）

- ・農薬は、主力の「オリゼメート」が前年同期に発生した出荷時期ズレの影響を受けたことにより、全体では前年同期を大幅に下回りました。
- ・動物薬は、水産用薬は前年同期を上回りましたが、家畜用薬、コンパニオンアニマル用薬は前年同期を大幅に下回り、全体としては前年同期を下回りました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債、純資産の状況

#### 〔資産〕

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は7,819億15百万円となり、前連結会計年度末に比べて35億98百万円減少しました。これは商品及び製品が42億1百万円、原材料及び貯蔵品が31億54百万円、建設仮勘定が58億87百万円、投資有価証券が44億18百万円増加した一方、受取手形及び売掛金が212億30百万円減少したことなどによるものです。

#### 〔負債〕

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は4,480億58百万円となり、前連結会計年度末に比べて168億46百万円減少しました。これは長期借入金が129億29百万円、退職給付引当金が35億2百万円増加した一方、支払手形及び買掛金が101億94百万円、商業・ペーパーが130億円、その他流動負債が67億39百万円減少したことなどによるものです。

#### 〔純資産〕

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は3,338億57百万円となり、前連結会計年度末に比べて132億47百万円増加しました。これは利益剰余金が73億53百万円、その他有価証券評価差額金が19億47百万円、繰延ヘッジ損益が3億91百万円、為替換算調整勘定が28億54百万円増加したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は41.7%（前連結会計年度末は39.9%）となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

区 分	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,889	25,846	5,956
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,643	△22,192	△7,549
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,938	△6,839	△900
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	588	573
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△676	△2,596	△1,920
現金及び現金同等物の期首残高	14,363	16,564	2,200
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	250	250
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	158	—	△158
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,846	14,217	371

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の増加、売上債権の減少などにより、前年同四半期より59億56百万円収入増の258億46百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が増加したことなどにより、前年同四半期より75億49百万円支出増の221億92百万円の支出となりました。

これにより、フリー・キャッシュ・フロー（営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計額）は前年同四半期より15億92百万円収入減の36億53百万円の収入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、金融債務が減少したことなどにより、前年同四半期より9億円支出増の68億39百万円の支出となりました。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は142億17百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,140,000	29,000	30,000	16,500
今回発表予想 (B)	1,128,000	34,000	35,500	19,000
(B) - (A)	△12,000	5,000	5,500	2,500

平成26年3月期通期連結業績予想（平成25年5月14日公表）については、第2四半期連結累計期間の業績および下期の業績見通しを踏まえ、前回発表した予想を修正しました。

※本資料に記載されている業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

#### （連結の範囲の重要な変更）

第1四半期連結会計期間より、関東製酪(株)および群馬牛乳協業組合は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(株)明治の連結子会社であったフレッシュネットワークシステムズ(株)は、同社を存続会社とし、北海道明販(株)、東北明販(株)、東京明販(株)、東京明治フーズ(株)、中部明販(株)、近畿明販(株)、中国明販(株)、九州明乳販売(株)を吸収合併し、明治フレッシュネットワーク(株)に商号変更しております。このため、北海道明販(株)、東北明販(株)、東京明販(株)、東京明治フーズ(株)、中部明販(株)、近畿明販(株)、中国明販(株)、九州明乳販売(株)は消滅会社となり、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

また、(株)明治の連結子会社であった金沢明販(株)は、会社分割によりフレッシュネットワークシステムズ(株)にチルド卸事業を分割し、(株)スリーエスアンドエルに商号変更しております。

(株)明治は、連結子会社であった(株)明治スポーツプラザの全株式をセントラルスポーツ(株)に譲渡したため、(株)明治スポーツプラザは当第2四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(株)明治の連結子会社であったFive Stars Dairy Ingredients Pte.Ltd.は清算終了したため、当第2四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

#### （持分法適用の範囲の重要な変更）

Meiji Seika ファルマ(株)の持分法適用会社であった明治サノフィ・アベンティス薬品(株)は清算終了したため、第1四半期連結会計期間より持分法適用の範囲から除外しております。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,902	14,557
受取手形及び売掛金	175,803	154,572
商品及び製品	81,339	85,541
仕掛品	2,229	3,001
原材料及び貯蔵品	37,624	40,778
その他	27,562	26,684
貸倒引当金	△251	△273
流動資産合計	341,211	324,864
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	275,303	277,683
減価償却累計額	△153,717	△156,867
建物及び構築物（純額）	121,585	120,815
機械装置及び運搬具	436,863	446,713
減価償却累計額	△333,873	△342,886
機械装置及び運搬具（純額）	102,990	103,826
工具、器具及び備品	56,830	55,202
減価償却累計額	△47,582	△46,254
工具、器具及び備品（純額）	9,248	8,947
土地	68,655	69,872
リース資産	7,776	7,433
減価償却累計額	△3,630	△3,708
リース資産（純額）	4,145	3,725
建設仮勘定	5,499	11,386
有形固定資産合計	312,124	318,574
無形固定資産		
のれん	161	108
その他	7,585	7,612
無形固定資産合計	7,746	7,720
投資その他の資産		
投資有価証券	53,931	58,350
その他	70,953	72,880
貸倒引当金	△453	△474
投資その他の資産合計	124,431	130,756
固定資産合計	444,302	457,051
資産合計	785,514	781,915

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	109,460	99,265
短期借入金	42,108	42,357
1年内償還予定の社債	15,000	15,000
コマーシャル・ペーパー	40,000	27,000
未払法人税等	7,868	6,418
賞与引当金	9,242	9,414
返品調整引当金	228	242
売上割戻引当金	5,263	2,084
その他	80,592	73,853
流動負債合計	309,764	275,636
固定負債		
社債	85,000	85,000
長期借入金	23,285	36,214
退職給付引当金	22,338	25,840
役員退職慰労引当金	280	204
その他	24,235	25,161
固定負債合計	155,139	172,422
負債合計	464,904	448,058
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	98,851	98,852
利益剰余金	185,436	192,789
自己株式	△9,299	△9,326
株主資本合計	304,989	312,315
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,557	14,505
繰延ヘッジ損益	△816	△425
為替換算調整勘定	△3,346	△492
その他の包括利益累計額合計	8,394	13,587
少数株主持分	7,226	7,954
純資産合計	320,609	333,857
負債純資産合計	785,514	781,915

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	561,249	562,957
売上原価	373,744	372,005
売上総利益	187,504	190,952
販売費及び一般管理費	177,455	175,055
営業利益	10,049	15,896
営業外収益		
受取利息	29	30
受取配当金	556	553
不動産賃貸料	1,200	1,116
受取補償金	1,500	750
持分法による投資利益	210	305
為替差益	—	620
その他	919	636
営業外収益合計	4,416	4,012
営業外費用		
支払利息	868	653
不動産賃貸原価	948	932
為替差損	220	—
その他	632	418
営業外費用合計	2,669	2,004
経常利益	11,795	17,904
特別利益		
固定資産売却益	1,457	102
投資有価証券売却益	67	527
関係会社株式売却益	—	256
その他	97	103
特別利益合計	1,622	990
特別損失		
固定資産廃棄損	1,084	1,047
投資有価証券評価損	1,372	5
減損損失	—	668
賃貸借契約解約損	—	593
その他	150	539
特別損失合計	2,608	2,854
税金等調整前四半期純利益	10,809	16,041
法人税等	5,471	6,016
少数株主損益調整前四半期純利益	5,337	10,025
少数株主利益	72	234
四半期純利益	5,265	9,790

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,337	10,025
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	204	1,966
繰延ヘッジ損益	△92	391
為替換算調整勘定	△16	2,907
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	150
その他の包括利益合計	95	5,415
四半期包括利益	5,433	15,440
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,359	14,983
少数株主に係る四半期包括利益	73	456

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	10,809	16,041
減価償却費	19,376	19,851
減損損失	—	668
のれん償却額	63	68
有形固定資産除却損	1,086	1,061
投資有価証券評価損益 (△は益)	1,372	5
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△32	21
賞与引当金の増減額 (△は減少)	37	178
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	172	1,390
受取利息及び受取配当金	△586	△584
支払利息	868	653
持分法による投資損益 (△は益)	△210	△305
有形固定資産売却損益 (△は益)	△1,405	△90
投資有価証券売却損益 (△は益)	△67	△524
売上債権の増減額 (△は増加)	△5,351	24,347
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△8,514	△6,917
仕入債務の増減額 (△は減少)	6,248	△12,606
その他	△1,264	△10,580
小計	22,602	32,679
利息及び配当金の受取額	676	877
利息の支払額	△944	△650
法人税等の支払額	△2,444	△7,060
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,889	25,846
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△14,570	△20,580
無形固定資産の取得による支出	△990	△1,227
有形及び無形固定資産の売却による収入	1,711	570
投資不動産の取得による支出	△19	△3
投資不動産の売却による収入	—	257
投資有価証券の取得による支出	△627	△2,133
投資有価証券の売却による収入	158	994
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	915
その他	△305	△986
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,643	△22,192

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△616	132
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	△11,000	△13,000
長期借入れによる収入	10,000	11,700
長期借入金の返済による支出	△9,985	△1,445
社債の発行による収入	29,867	—
社債の償還による支出	△20,000	—
自己株式の増減額 (△は増加)	△6	△26
配当金の支払額	△2,926	△2,972
少数株主への配当金の支払額	△89	△110
その他	△1,180	△1,115
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,938	△6,839
現金及び現金同等物に係る換算差額		
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△676	△2,596
現金及び現金同等物の期首残高	14,363	16,564
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	250
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	158	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,846	14,217

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第2 四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	503,354	57,894	561,249	—	561,249
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	561	552	1,114	△1,114	—
計	503,916	58,447	562,363	△1,114	561,249
セグメント利益	6,578	3,308	9,887	161	10,049

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額161百万円には、セグメント間取引消去72百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用88百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	503,711	59,246	562,957	—	562,957
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	483	387	871	△871	—
計	504,195	59,633	563,828	△871	562,957
セグメント利益	13,372	2,436	15,808	87	15,896

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額87百万円には、セグメント間取引消去106百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△18百万円が含まれております。全社費用は当社（持株会社）運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。